苦情処理テストから№．７

平成 10 年 11 月 19 日
国民生活センター

全自動洗濯機給水部分からの水漏れ事故にご注意！

家屋内の水栓の蛇口に洗濯機の給水用継手を取付け、全自動洗濯機に接続し使用していた。留守中に洗濯機の給水ホースが蛇口から外れ、部屋中が浸水した。

テストの結果、外れた原因は不明であったが、製造メーカー６社にアンケート調査を行ったところ、半数のメーカーが給水部の構造を根本的に改善することも視野にいれるべきであるとの意見であった。さらに、ＰＩＯ－ＮＥＴを調べると、全自動洗濯機からの水漏れに関する事故は最近の５年間で１２５件みられ、そのうち給水口周辺での水漏れも２６件ほど入っていた。このことから消費者が蛇口の水栓を開いたままにしておき、何らかのアクシデントで蛇口からホースが外れると二次被害が起きやすいことがうかがえる。このため、広く消費者に注意を喚起し被害の拡大防止に努めることとした。

１．事例

「留守中に全自動洗濯機（１年半使用）の給水栓継手から給水ホースが外れ部屋中が浸水した。給水ホースが外れた原因について調べてほしい。なお、水栓は開けたまま使用していた」との依頼に基づいて調査を実施した。

２．テスト結果

１）異常の確認

商品は、この製品の給水栓継手としては非常に一般的な構造のもの（図１参照）で、ネジで蛇口に給水栓継手を固定して設置し、その後はワンタッチで着脱ができるタイプのものであった。さらに平成元年から日本電機工業会規格で統一して付けられるようになったロックレバーもついている商品であった。

この商品に JIS 規格での試験水圧の 1.75ＭＰa(17.5 ㎏ f／c ㎡)の水圧をかけてテストをしたが全く異常はなく水漏れはしなかった。またロックレバーをはずして同様のテストをしたがやはり問題なかった。さらに外観も観察したが異常な痕跡は確認されなかった。

しかし、特殊な事例としてウォーターハンマー現象や水圧の変化、接合部分への異物の侵入などが原因でこのような事故が起こる可能性が考えられる。

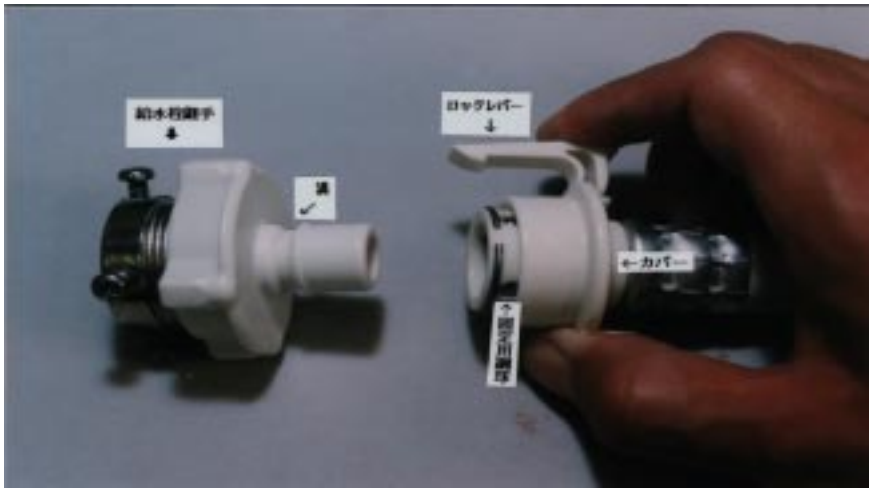

図１　給水栓継手と給水ホースの接続

２）表示

今回事故がおきた商品の取扱説明書には「洗濯前は必ず水栓を開いてホースの接続を確認してください」の表示はあったが「使用後毎回必ず水道栓を閉じる」旨の表示はなかった。

この商品は平成 8 年１０月に購入したもので現在もこの機種には注意表示はないが、平成９年夏以降に発売された商品については取扱説明書に注意表示をするようにしたとのことであった。

さらに、全自動洗濯機大手メーカー６社の比較的最近の取扱説明書の表示について調査をしたところ、６社とも「使用後水栓を閉じてください」との表示が取扱説明書のどこかにはみられた。ただし、メーカーによって書かれている回数、目立ちやすさには差がみられ、さらにこの６社とも今回表示を調べた機種には「予約タイマー」機能が付いていた。この機能を使用するためには夜間など長時間水栓を開いておくこともあり問題があった。

３．調査

１）メーカーへのアンケート調査

全自動洗濯機製造メーカー６社（三洋、シャープ、東芝、日立、松下、三菱）に対し全自動洗濯機の特に給水部分での水漏れに関し「事故の重要度」「水漏れ事故の原因」「水漏れ事故を防ぐには何が一番重要か」についてアンケート調査を行った。製造メーカー６社からの回答は以下のようであった。

①事故の重要度については、６社とも場合によっては重大な拡大被害につながることがあり非常に重要であると認識している。

②水漏れ事故の原因については不明であるが、設置する際の接続作業や水栓が多様化していることも原因の一つとして考える。

また、「当該給水装置以外の水管その他の設備に直接連結させていないことと規定されているためワンタッチ継手により接続を行っているのが現状である。」と回答したメーカーもあった。

③水漏れ事故を防ぐには何が一番重要かについては、６社とも「取扱説明書の充実によって、正しい据え付けや正しい使い方を分かりやすく注意を喚起したい」と考えている。

しかし、「給水部分の接続部分を安定して取り付けられるようにネジ締結にする必要がある」、「水道への直結方式の採用も併せてすすめていきたい」、「今後は構造を見直し改善を最重点で推し進める」などと、給水部分の構造を根本的に改善するということも視野にいれているメーカーが半数に及んだ。

２）ＰＩＯ－ＮＥＴ(全国消費生活情報ネットワーク・システム)による相談件数

「洗濯機」の水漏れ事故総数３０４件のうち「全自動洗濯機」は１８８件とその６２％である。また「全自動洗濯機」の水漏れ事故はこの５年半で１２５件、年次推移をみる

と表１のとおりやや増加傾向である。

具体的にみると自分の家の床・柱や家財道具を腐らせたりかびを生やした事例、さらには集合住宅で階下の住宅や家財道具まで広範囲にわたり被害がおよんだ拡大損害の事例なども数多くみられる。

表１　全自動洗濯機の水漏れに関する PIO－NET 件数の推移

年度	９３年度	９４年度	９５年度	９６年度	９７年度	９８年度(9月末現在)	**合計**
件数	１３	２３	１９	３１	２７	１２	**125**

また、１２５件のうち水漏れを起こしている具体的な場所に関しては、表２のとおりであり、給水口周辺、排水口周辺での水漏れが比較的多い。

給水口周辺の具体的部位では給水ホースと蛇口の接続部分が多く、蛇口との継手部品のネジ止め部がはずれたり水漏れしたりする、また今回の事例のようにワンタッチジョイントがはずれた事例などがある。

排水口周辺については排水ホースが排水口からはずれた、排水ホースに傷がついたなどが多い。

表２ 水漏れの部位

水漏れ部位	給水口周辺	排水口周辺	ホース	本体	その他
件数	２６	２１	２１	１６	４１

４．消費者へのアドバイス

１）全自動洗濯機での水漏れ事故が比較的多く起こっており、水漏れを起こすと（特に集合住宅で事故が起こった場合などは第三者に対しても）、広範囲かつ重大な被害になることが多い。

取扱説明書にもあるように、洗濯終了後は面倒がらずに必ず毎回水栓を閉じるよう徹底した方が良い。

２）洗濯機の設置の際に給水栓継手の取付けのネジを水栓側にしっかり締め付けて取り付けるが、取付けに不適当な水栓もあるので取扱説明書をよく見てしっかり取り付けられるかを確認する。場合によっては水栓を付け替えるなども必要である。また、ネジ止めの部分からも水漏れすることがあるので、定期的に点検して締め直したり、引越しなどで使用する水栓を替えた場合は内部のパッキンを取り替えるなどをした方が良い。

３）最近の洗濯機にはタイマー予約機能が付いている。タイマー予約機能を使用する場合

は予約している時間中水栓が開いたままとなるので、より一層水漏れに関して注意を払う必要がある。また、タイマー予約機能を使用する場合でも洗濯が終了したら水栓を閉じるようにした方が良い。

５．業界への要望

１）今回の事例のように洗濯機の水漏れ事故が給水口部分で起こっているケースがみられるので、水栓から給水ホースを接続する方法として直結タイプを含め根本的に水漏れしない構造にするような改善の検討を要望する。

２）洗濯終了後に水栓が開いたままであるときは、使用者にそれを知らせるような具体的なしくみの検討を要望する。

３）洗濯機を使用していない時には消費者が水栓を閉めるように、取扱説明書等で分かりやすい表示の徹底をはかるよう要望する。

本件連絡先 商品テスト部
０４２－７５８－３１６５

<title>全自動洗濯機給水部分からの水漏れ事故にご注意！</title>